

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度(令和2年度)	科目名	資格対策講座2	
科目基礎情報					
開設学科	情報処理科	コース名	システム運用コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位	開講時間	月曜 7時限目～	授業形態	講義
教科書/教材	プリントで配布				
担当教員情報					
担当教員	諸岡 瑞香、下川 洋一、鈴木 睦男		実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア	
学習目的					
<p>学生が最新技術動向を業界のプロフェッショナルから聴講し、見識を広めることを目的とする。ITの技術は転換期にあるため、今後必要とされる人材は、知的好奇心を持ち、興味を持った事柄についてはその深層まで探究することができる人間である。さらに、多様性が求められる昨今、学生とは異なる環境にいる人との交流を持つことが多様な価値観を持つ他者への理解につながる。本講義では学生の知的好奇心を刺激すること、他者に対する想像力、発想力を養うことができる。</p>					
到達目標					
<p>本講義を受講した学生が、ソフトウェア開発で出題されている1つ1つの命令を意味を説明できること、簡単な例題のプログラム等を解説できること、基本情報技術者試験の午後問題で出題されている問題の内容を理解できること、出題されるプログラム等を読解して、解答を求めることができることを目標とする。</p>					
教育方法等					
授業概要	<p>この授業では、ソフトウェア開発問題のプログラム等で使用される各種命令を数個ずつ解説し、例題を使って学んだ命令の使われ方を学ぶ。その後、簡単な課題のプリントを使って、命令数の少ないものから多いものまでを段階的に解くことによって、問題文やプログラム等の読解力を養い、基本情報技術者試験の午後問題で出題される問題を解答できるようになることを目指す。</p>				
注意点	<p>資格試験は、講義時間内の学習だけでは合格困難であり、学生自身が主体的に自宅学習を進めることが肝要である。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応をする。理由の無い遅刻や欠席は認めない。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーを守ることを求める。(詳しくは、最初の授業で説明。)授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>				
評価方法		割合	備 考		
	試験・課題	80%	配布するプリントの解いた問題数によって評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画(1回～15回) 1回(2)時間 ※45分を1時間とする					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	言語解説(1)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
2回	言語解説(2)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
3回	言語解説(3)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
4回	言語解説(4)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
5回	言語解説(5)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
6回	言語解説(6)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
7回	言語解説(7)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
8回	言語解説(8)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
9回	言語解説(9)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
10回	言語解説(10)	学んだ言語の命令を使った簡単な例題のプログラムを読解できる			
11回	課題演習(1)	過去問題などの課題プログラムを読解して、解答を求めることができる			
12回	課題演習(2)	過去問題などの課題プログラムを読解して、解答を求めることができる			
13回	課題演習(3)	過去問題などの課題プログラムを読解して、解答を求めることができる			
14回	課題演習(4)	過去問題などの課題プログラムを読解して、解答を求めることができる			
15回	課題演習(5)	過去問題などの課題プログラムを読解して、解答を求めることができる			